

入札説明書等に対する質問回答書

昭和林道系ノ瀬支線林業専用道新設工事(R5当初ゼロ国)

No.	質問事項	回答事項
1	『公表用設計書 8頁 3号明細書』において、100m ³ 当り1m ³ の代価となっております。右上に記載された 100m ³ 当り は、1m ³ 当り の記載間違いだと思われる為、御確認いただき回答願います。	ご指摘のとおり、1m ³ 当りの記載が正しいです。契約後、設計変更にて対応いたしますので、積算にあたりましては、現在公表されている設計書で願います。
2	現場打ち横断溝(300×300)及び(500×500)について、横断工標準図を確認すると、現場打コンクリート側溝の上部のグレーチングがセットされる部分について、アングル鋼及びアングル鋼固定アンカー筋が見受けられますが、標準図にも公表用設計書にも計上されていません。標準図で見受けられる アングル鋼及びアングル鋼固定アンカー筋 は不要ということでしょうか？ 不明な為回答願います。	鋼製グレーチングの単価に受枠の単価が含まれています。アングル鋼等につきましては、標準図のとおり必要です。
3	現場打ち横断溝(300×300)及び(500×500)について、横断工標準図を確認すると、基礎材はm ³ 単位で記載されています。ですが公表用設計書では、m ² で数量計上されています。基礎碎石をm ² 単位で計上するのであれば、横断溝(300×300)は0.76m ² 、横断溝(500×500)は1.1m ² の数量計上となるとと思われる為、確認していただき回答願います。	ご指摘のとおり、基礎材の数量はm ² 単位の記載が正しいです。契約後、設計変更にて対応いたしますので、積算にあたりましては、現在公表されている設計書で願います。
4	ヒューム管(φ450)について、標準図を確認すると、管外径の2倍が基礎碎石の幅となっている為、ヒューム管(B型管)φ450の外径が526mmであることから、基礎幅は1052mmとなります。公表用設計書を確認したところ、基礎碎石の数量計上が、9.7m当り1.6m ² となっておりますが、9.7m当りの場合、基礎幅が1.052mであることから、10.2m ² になるとと思われる為、確認していただき回答願います。	ヒューム管(φ400)の設計になります。基礎材の数量計上につきましては、ご指摘のとおりです。契約後、設計変更にて対応いたしますので、積算にあたりましては、現在公表されている設計書で願います。
5	コルゲートパイプ(φ800)について、標準図を確認すると、基床材の平均幅は(0.80+0.92)÷2=0.86mとなりますが、公表用設計書を確認したところ、基礎碎石の数量計上が11.7m当り2.0m ² となっています。基床材の平均幅が0.86mであることから、11.7m当りですと10.06m ² になるとと思われる為、確認していただき回答願います。	ご指摘のとおり、基礎材の数量はm ² 単位の記載が正しいです。契約後、設計変更にて対応いたしますので、積算にあたりましては、現在公表されている設計書で願います。